

町田地区保護司会だより

第99号

発行 町田地区保護司会
会長 平本 章一
編集 広報部
TEL 042(794)6791



大地沢青少年の家



A子と出会って

町田市教育委員会 委員長 佐藤 昇

中学生のA子は、喧嘩・家出・器物破損・校則違反などを繰り返しては保護者や教師を困らせ、担任をしていた私もA子の言動をよく理解できませんでしたが、卒業後に始めた文通を通して、少しづつ心を開いてくれるようになりました。その手紙に書かれた言葉の中に、なぜ非行に走ったか、どうして非行から立ち直れたか、A子の思いが表っていました。手紙の一部を紹介します。

「何でつっぱったか、それは好きな人がつっぱりだったから。あとは、楽しもうと思ってね。それから、目立とうという気持ちもあった。校内暴力って、自分の気持ちを分かってもらえないで、八つ当たりしてんのよ。赤ちゃんと同じかな。」

「私が留置場にいたとき、お母さんが面会にきてくれた。お母さんは、すごくやつれていた。あのとき、初めて泣いた。本当は、ごめんねって言いたかったけれど、反対のことばかり言っちゃった。お母さん

と一緒に帰りました。」

「先生が文通をしてくれなかつたら、またつっぱりに戻ったと思う。私にとって、先生は大変な人です。もし、中学のときに、見放されていれば、もっと悪くなつて、面会に来たお母さんのことなんか、忘れてしまうと思う。」

「先生っていうのは、勉強だけを教えるんじゃないと思う。どんなことがあっても、生徒を見放してはいけないと思う。人には絶対に良心があると思う。」

「親とかが治してやりたいと思うのは当たり前だけれど、どうしてそうなったのかというわけを知ろうとしている人って少ないし、治してくれると言っても、本人が、はい、そうですか、と言って治るわけでもないし。」

問題行動を重ねる少年を立ち直らせるために、周囲の大人がどう接していったらよいか、私は、A子との出会いを通して多くのことを学びました。

平成28年 新春の集いを開催

暖冬の新年三ヶ日を迎えた丙申の年。1月22日、ホテル ザ・エルシィ町田に於いて、恒例の新春の集いが開催されました。

第1部は藤牧総務部長の司会進行。小山副会長の開会の辞に続き、平本会長より本年度の諸活動



の報告とお礼、そして次年度へ向けての抱負が語られました。

平成27年度法務大臣表彰の井上勉氏への記念品贈呈、各彰受彰者の紹介へと続きました。

ご多忙の中、ご参列頂いたご来賓の方々（来賓者一覧）の祝辞へと移り、南元立川支部長からの「毎月の報告書を読みながら、確実に更生へ結びついている実感があります。」とのお言葉は、対象者のその後を推し測れない私達にとって、嬉しいお言葉がありました。

石阪市長からは直近の課題である若い人達の発掘等総合的にサポートしていくきますとの力強いご挨拶をいただきました。

ご来賓の方々、共通して、各機関の連携なくして更生保護活動は成り立たない旨の祝辞でした。ご参加いただいた桐友会諸先輩の紹介で一部を終了しました。

駆けつけて頂いた下田町田警察署長、私達の窓口である竹内主任官からの挨拶で第二部開会。鈴木総務部副部長の軽快な進行により、まず中里桐友会会长の音頭による乾杯。喉を潤し、懇親会が

始まりました。宝塚男役を思わせるスタイル抜群の竹生少年第一係長をトップに、各分区一のどのど



自慢を囲んでのカラオケタイム。お話自慢、飲み自慢達が、会場の円卓を行ったり、来たり。そんな和気あいあいの中から生まれる本音のコミュニケーション。グラスをやりとりしながら、参加者の庶民的な一面を知ることが出来ました。中里副会長の閉会の言葉を最後に恙無く終了しました。

(広報部 青柳 さつき)

主なご来賓

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ①東京保護觀察所立川支部長 | 南元英夫様 |
| ②同 町田地区担当主任保護觀察官 | 竹内研児様 |
| ③町田市長 | 石阪丈一様 |
| ④町田市議会副議長 | 大西宣也様 |
| ⑤町田市教育長 | 坂本修一様 |
| ⑥町田市地域福祉部長 | 須崎信孝様 |
| ⑦町田警察署長 | 下田進一様 |
| ⑧多摩地区保護司会連絡協議会会长 | 野崎重弥様 |
| ⑨町田市青少年健全育成地区委員会 連絡協議会会长 | 宮島栄一様 |
| ⑩町田地区更生保護事業協力 事業主会会长 | 細野泰司様 |
| ⑪町田地区更生保護女性会会长 | 若林文子様 |

社会参加活動に参加して

平成27年11月29日(日)に忠生分区主催の「第6回社会参加活動」が行われました。内容は、忠生公園の清掃活動です。

当時は、町田地区担当の竹内主任官をはじめ、町田警察署等関連5団体の参加を頂き、対象者2名を含む25名で原分区長の元気なあいさつを合図に、4つのグループに分かれて清掃がスタートしました。

対象者は、担当者以外の保護司と一緒に汗を流して作業したり会話をしたり、公園利用者や通行人から「ありがとう」の感謝の声を耳にすることが大切な体験となったと感じました。

ともすると、相手のタイミングに合わせて一緒に何かをすることが苦手になっている人が多いと思うことがあります。この清掃活動を通して公園利用者に配慮しながら初めて会う人と協力し、重い葉っぱと一緒に運ぶ等日常の延長の体験ではありますが、周りを気遣う経験は貴重なものだと感じました。対象者と向き合う方法はいろいろなプログラムがあって良いのだと改めて考えさせられました。清掃終了後、更生保護女性会の方々が作ってくださったカレーを食べている時の達成感に満ちた顔を見ながら、このような機会の継続が課題だと痛感しました。
(忠生分区 都築 佐枝子)



平成27年12月6日(日)に町田分区主催の「青少年施設ひなた村」清掃作業が行われました。

美味しいカレーが食べたいなと思ったら、町田分区の社会参加活動へどうぞ!美味しいお米のNさん、採れたて野菜のTさん。手際良く作業が進みます。高校生のK君は、我々に交じって几帳面にサラダの蕪のスライス。「お母さんが具合悪い時、僕がご飯作るんだ。」安心して任せられます。

今年は暖冬のせいか、いつも泥濘むてっぺん広場も乾いて焼き芋用焚火作業も順調。一方ビニールゴミや空き缶は少なく、清掃作業は物足りなさを感じた人もいました。

社会貢献活動が本格的に始まり、社会参加はどうなるのという声も。特別遵守事項で義務とされる貢献活動と自由参加の社会参加。どちらもボランティア体験を通して自己有用感・肯定感を育む。

地域に帰って来る子ども達に、世の中にはこんな活動をしている人がいる事を見せ、言葉を交わし共に作業し、最後に同じ釜の飯を食う。彼らが将来家庭を持って地域社会に生きる事を何となく感じてもらう。これは地域にしか出来ない事。義務でない点参加者が少なくなってしまうのは止むを得ない事ですが「継続は力」を信じ続けて行けたらと思っています。

(町田分区 春山 幸子)



多摩少年院成人式に参加して

副会長 小山 典子

平成28年1月14日多摩少年院の成人式が行われました。

冬なのに春のような暖かく穏やかな日差しのもと「恵岡寮」から39名の新成人が誕生しました。

新成人は両親や先生、来賓が見守る中、胸を張ってお揃いのスーツネクタイで入場しました。院長は式辞の中で「どのような場所ではなく、どのような決意を持って成人式を迎えるのか…多くの人達の支えがあったことへの感謝の気持ちを忘れずに生活していく

ほしい。」とお話があり、来賓からは八王子市長の祝辞をいただきました。

新成人一人一人が壇上に立ち、誓いのことばを発表しました。「たくさんの人を傷つけてきた。迷惑をかけてきた。」等の反省の言葉、たくさんの感謝の言葉、「責任をとれるよう頑張る。立派な大人になる。」等の決意の言葉「この場にいるのは人生最大の汚点だけど人生最大のチャンスだ。」他自分の思いや決意を述べました。お返しに参加している親たちの中から2名のお母さんからの心温まる手紙を職員の方が代読をしてくださいました。

最後に全員で「ありがとう」を合唱しました。

鶴川分区

分区で「ご退任保護司を送る」会

今年度は、三人の退任者があり、定数20名が確保できるか心配でした。しかし、ご退任された方々が、後任保護司の心配をして下さって、ご推薦を頂きました。お蔭様で当分区は、現在定数割れも無く、新人保護司を含め21名の在籍者があります。これもひとえに、諸先輩保護司のご協力のお蔭と感謝しています。

2月19日、平本璋一会長の臨席をいただき、退任保護司3名の「ご退任者の送別会」を開催させて頂きました。



送別会の中で、ご家庭の事情で10月末に早期退任を余儀なくされた、萩生田勝利氏へ平本会長から「法務大臣感謝状」と記念品が授与されました。ご退任を迎えた、石川洋一郎氏、吉川俊夫氏、萩生田勝利氏のお三方に分区会から感謝の気持ちを込めて「花束の贈呈」をさせて頂きました。

先輩方からは謝辞を頂き、感極まる思いが伝わって参りました。これからも引き続き保護司会へのご協力をお願いした次第です。また、来賓として熊澤洋相談役からも御祝辞を頂戴致しました。

「分区会」会員一同これからも、気を引き締めて、分区活動に努めたいと思います。

(鶴川分区 中岡 秀子)

忠生分区

薬物乱用防止教室に参加して

12月5日、市立小山田中学校で教育委員会委員長佐藤昇氏「子どもの心のサインに気づくために」、保護司小山典子氏「薬物乱用防止教室」のお二人を講師に迎え講演会を行いました。

「子どもの心・・・」の話は多感な中学生の心の闇を、いじめる側といじめられる側の両面から話され非常に分かりやすい説明でした。

また、薬物乱用防止教室は短い時間でしたが、薬物の怖さや身辺にある薬物乱用の実態を改めて認識しました。

人間関係が希薄になっている昨今、微力でも地

南分区

満開のさくらの下で広報活動



今年も恩田川沿い総合体育館裏において、町田市主催地元商店街合同による、さくら祭りが3月の26日(土)~27日(日)、4月の2日(土)~3日(日)の4日間、年度を跨いで開催される予定で、3月上旬までには資材などの準備に追われます。

毎年の事ながら春先の気ままな天候に振り回され雨が降らないかと心配し、花が咲けば満開のままで期間中もってほしいと誰もが思う心は同じです。

この祭りの期間中南分区の全員が参加するため4日のローテーションを組み対応しますが、花が見頃で晴天に恵まれると、猫の手も借りたいほど忙しくなりてんてこ舞いです。

当分区出身の桐友会会长はじめ会員の先輩方にもお手伝いいただき、ポップコーンやわた菓子の販売、広報活動のチラシやらグッズの配布などをお願いする予定です。

なお売上げが多くあった時は、分区内にある更生保護施設「鶴舞会」に売り上げの一部を施設の運営費に寄付します。

どうか期間中さくらが咲き乱れ見物のお客さんが多くご来店されることを願っています。

(南分区 松沢 明治)

域の一人一人が意識をもち皆で子ども達を見守り、また命の大切さを伝えていくのが大人の責務かなと痛感しました。

(忠生分区 井上 淳子)



各分区の活動

堺分区

相原町の地域活動について

相原町の現在の人口は、約15000人で15歳以下が1752人(12%)、65歳以上が3432人(23%)と他の地域と同様に少子高齢化が進んでいます。

相原町の町会は、11町会からなり連合町会がそれを纏めています。各町会の主な行事には、盆踊り大会や子供会行事、防災訓練等があります。他にも子供達のみまもり活動や一人暮らしの高齢者宅への訪問・声かけ等を積極的に行っている町会も見受けられます。

相原連合町内会が毎年行っている「相原ふれあいフェスティバル」に堺分区は地域広報活動の場として参加しています。

このフェスティバルには毎年1万人以上の来場者があります。連合町内会の役員や実行委員、各種団体が一致協力し町全体でイベントを盛り上げています。フェスティバルの最大の魅力は、子供達や家族で楽しめるブースが多くあることです。100店もの出店やステージでは、幼稚園から大学、サークルやお囃子などの発表の場ともなっています。これ等のイベントや年間行事での各団体の連携や家族や地域住民が子供達とのふれあいの場づくりという地道な活動が子供達を見守り、支える気持ちを醸成しているように思えます。

(堺分区 諫訪 賢一)



地域別定例研修について

保護司は常に研鑽に励み、人格認見の向上に努めることができます。地区別定例研修は毎年3回実施しています。

平成27年度も第Ⅰ期6月8日「社会貢献活動について」をテーマに、社会貢献活動の概要、実施体制、実施対象等々の講義を通して理解を深めました。

第Ⅱ期10月20日「接触を確保するための関わり方」をテーマに、接触の意義、来訪・往訪の意義、段階別処遇での接触等々の講義の後、グループ協議を行いました。

町田分区自主研修

更生保護施設鶴舞会見学

更生保護施設は全国に104あり、東京に21、多摩地区に5あります。その内、高齢・障がい等自立困難者受け入れ施設が全国57を占めていますが、「鶴舞会」はその一つでもあります。

建替えから4年の施設はきれい! 13の個室・バリアフリーの室・食堂キッチン・喫煙室すべてきちんと整っています。その裏では、5日に1回の当直。入居者一人一人に向ける、厳しくも温かい目。僅かな変化に気付き、大事に至らせない。職員は正にお父さんお母さん。刑務所へ出向いて面接し、対象者の特性を見極めたうえで入居者を決めています。もし、地域に迷惑を掛けたらと細心の注意を払っています。3Fの多目的室は地域に開放され、サークル活動・自治会会議等に使われています。

この3月にご勇退予定の馬場施設長は、41年間少年の更生に関わり、退官後は保護に関わりたいと鶴舞会に入り13年。楽しかった幸せだったと、しみじみ語ってくださいました。そのお顔は、犯罪に関わってしまった人達の行く末を案じ、施設と社会を繋ぐ懸け橋として慈愛に満ちています。

静岡県出獄人保護会社の金原明善氏から始まる民間篤志家の心が鶴舞会に至るまで脈々と流れているのを感じました。

(町田分区 春山 幸子)



第三期 2月17日「保護観察対象者の就労について」

をテーマに、就労支援制度の再確認、効果的な就労支援のあり方などなどの講義の後、隣り合わせた人との意見交換を行いました。

研修部では毎回全員参加を目指して事前に出欠の確認をとり、欠席の方には本庁・支部での受講をお願いしています。

次年度の地域別定例研修についても、日頃の更生保護活動を通して希望したいテーマや内容がありましたら、東京保護観察所に要望していきたいと思います。

(研修部 村上 正博)



多摩連特別研修会に参加して

冬空の寒さ身にしみる2月5日、立川支部9階の大会議室にて、研修会が開かれました。多摩地区で人数の割当が有るため、正副会長、分区長、研修部員が出席しました。講師は山本譲司氏で、講演は「福祉的視点で考える更生保護」でした。

開会挨拶を頂いた野崎連絡協議会長によると、山本氏は、「訳があり貴重で不幸な体験をした方」だということで、その経歴はプロフィールの中にも書かれています。都議二期を経て、国政の場へ。



衆議院議員二期目を迎えた時、秘書給与詐欺事件を起こし、東京地検に逮捕されました。受刑中は障がいのある受刑者たちの世話係を務めました。出所後は、知的障がい者の支援活動に取組み、執筆活動や社会復帰支援、公的委員などを務めています。

講演の中では、体験者でなければわからない、受刑者たちの実情や、行き場が無く再犯して戻ってくる障がい者の話。社会復帰促進センターをつくろうとして反対された話など、予定時間を大幅にオーバーして終了しました。

障がい者に対し、新たな絆を深く胸に刻む貴重な講演会でした。

(研修部 加藤 俊夫)

保護司特別研修に参加して

平成27年度第3回保護司特別研修が東京保護観察所で平成27年12月16日に実施されました。参加者は都内各保護区から1~3名の保護司60名。当地区会からは小山副会長と2名で参加しました。

今回のテーマは「被害者等と更生保護」で常盤大学国際被害者学研究所教授諸澤英道氏の講義と関東交通犯罪遺族の会代表小沢樹里氏の講話で、その後質疑応答をしました。

諸澤教授からは「被害者理解教育は最善の犯罪防止策」と題して「償いを考える。孤立している日

本の被害者。謝罪をしない犯罪者」等について諸外国の実例の紹介を交えて講演を頂きました。

小沢代表からは「保護司の皆さんに伝えたい思い」と題して「被害者の思い。保護司に知ってほしいこと、望むこと」等について話されました。被害者や事件とどう向き合っているのか切実な思いがあり、保護司には加害者が長期にわたって謝罪の気持ちを持つことや、被害者的心身の安心安全を心がけ、被害者だけでなく家族友人すべての人の生活が変わったという事実、そういう被害者の声を知っていたき事故事件をさせない社会を望み、再犯を防ぐ保護司の活動にも感謝をしていました。

日本の社会において8割の殺人犯は賠償をしていない事実、その他の事件事故で賠償も終わっていないのに仮釈放される事など、保護司として対象者の再犯を防止するうえで償いの在り方を考えさせられた研修会でした。

(副会長 中里 真二)

旧交を温め協力を誓う 保護司会と桐友会が懇親会

昨年の12月10日にホテルヴィラ「藤の間」で例年の通り保護司会常任理事と桐友会の有志が懇親会を開催しました。進行幹事は当番制で、今回は保護司会の番で万端準備を整えていただき順調に進行できました。

出席者は保護司会が11名桐友会からは14名の都合25名で全員が四方から向き合う形に着席して会が始まりました。保護司会会长、桐友会会长の順で挨拶があり懇談に入りましたが参加者全員から親しく「近況報告」が行われ話に弾みがつきました。

懇談会を通じて明らかになったことは年度順に桐友会に移籍される方々が多くなってきていることです。裏を返せば保護司の充足率の維持に特段の配慮が求められていることです。

このことについては東京桐友会でも提議されている案件です。桐友会員は長年のキャリアを生かして新任保護司の発掘や紹介に積極的に関わり、協力



することが求められています。

懇談は和やかに進み、中締めの挨拶は桐友会最長老の西山勝さんの発声により行われ、お互いの協力と発展を願って会を閉じました。

(町田地区桐友会 会長 中里 猪一)

平成27年度町田駅周辺繁華街防犯合同パトロール

師走のあわただしい中の12月18日、夕刻より第3回目の町田駅周辺繁華街防犯合同パトロール活動を開催しました。

町田市の犯罪は件数が多く、警視庁管内ではトップクラスのため、治安が悪いイメージがあります。町田警察署生活安全課に相談したところ、保護司会独自の方法で、非行防止や街の美化につながるならば協力するとの事でしたので、早速計画を進めました。

東京都青少年健全育成条例の一部改正により、午後6時以降は、ゲームセンター等の店舗へは保護者の同伴が無い場合は出入りが出来ないと定められています。このことにより午後5時50分～6時を重点的に視野に入れ、店内に出向く方法で違反者には声かけが出来ればと実施しました。

同行参加者は、保護司会会員及び更生保護女性会役員、町田警察署員等で、関係機関と連携した



活動でした。1グループ7～8名の班編成で警察署員の誘導に従い、参加者全員「防犯」腕章を着けての行動です。ネオン輝く、クリスマスモードで行き交う人々、路上での若者の立ち話等の光景を横目に見ながら繁華街へと、コースごとに出发しました。

ゲームセンター・カラオケボックス・インターネットカフェ等店内に入り、見て回りましたが、店内での青少年の姿は減っている様子で思ったより少なく、安堵しました。同時にこのような場所に未成年者を立ち入らせないようにする大人の責任は重要であるとの思いも新たにしました。

(地域活動部 内田 純子)

青少年健全育成地区委員会連絡会研修概要

平成28年2月4日都庁にて、青少年健全育成地区委員会連絡会研修会が開催されました。内容は、こころの東京革命推進モデル事例発表と山本啓史氏による講演「子どもと親を取り巻くインターネットの現状」で、保護司会から原分区長と参加致しました。

モデル事例は、町田市から原町田地区と小山田地区で大人と子供の関係を強める取り組みを発表し、新宿区と目黒区では、子どもの自立性を高める取り組みを発表しました。

原町田地区は、町田市立町田第二小学校の三年生の商店街探索と店員体験から、地元商店との繋がりを持つ事で地域の中で子どもを育てるきっかけとする取り組みを発表しました。また、小山田地区は、年間を通した田んぼ・畑活動を紹介し、大人と共に自然や作物とふれあう体験から心の豊かな子どもに育てる取り組みを発表しました。収穫した沢山の作物は地域の活動で振る舞われている報告がされました。

目黒区は、2泊3日のキャンプから次世代コミュニティーリーダーの育成に繋げる取り組みを発表し、新宿区は、スノーツアーで地域の大人と中・高・大学生がスタッフとなり、各世代のリーダーの育成をする取り組みを発表しました。どの発表も子ども達に対し、温かい心の込められた取り組みでした。

山本啓史氏による講演では、インターネットについての解り易い説明から、ネット社会での現状と悪影響について話されました。子どもをトラブルから守るルールづくりの3つのポイント「①小さく具体的で守りやすいルールに②子ども自身にルールを宣言させましょう③ルールは二重構造にしましょう」が紹介され、今後学校や家庭に伝えて役立てていきたいとの声がありました。

(忠生分区 小山 洋子)



平成27年度 受彰祝賀会を開催

平成27年12月4日(金)立川グランドホテルに於いて、平成27年度多摩地区保護司会連絡協議会受彰祝賀会が開催されました。

今年の東京保護観察所立川支部管内の受彰者は、叙勲3名・褒章4名・法務大臣表彰14名・全国保護司連盟会長表彰20名で、計41名でした。祝賀会当日は、受彰者とご来賓、多摩連理事等、総勢約100名が集い、賑やかな会となりました。

会に先立ち、受彰者と地区会長の記念撮影が行われ、午後2時に第一部が開宴。平本璋一総務部長の司会により会は進行し、野崎重弥多摩連会長、荒木龍彦東京保護観察所長の挨拶に続いて、受彰者41名が紹介されました。そしてご来賓の永見光章東京都保護司会連合会長、中野淳子東京更生保護女性連盟会長から御祝辞をいただいた後、受彰者を代表して吉野成司保護司(北多摩西地区保護司会)が、保護司としての活動を振り返りつつ謝辞を述べられました。

引き続いて行われた第二部は、南元英夫東京保護観察所立川支部長のご発声による乾杯でスタート。「ひの煉瓦Jazz Club」によるジャズの生演奏が流れる中、和やかな話しが、楽しそうな笑い声が響き、時間が過ぎていきました。

最後は、ホテルのペアディナー券、ランチ券をかけてのお楽しみ抽選会で大いに盛り上がり、約3時間にわたった祝賀の会も閉会となりました。受彰を機に受彰者の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。

(多摩連事務局 小林 章子)



退任のご挨拶



鶴川分区
吉川 俊雄

1月31日をもって退任いたしました。時の経つのは早いもので、2000年2月に保護司を拝命し、16年間努めました。その間、多くの対象者が更生して立派な社会人になったことや良好通知を受け取ったことなどがあり、無事使命を達成できました。これも保護司会の皆様に支えられた賜物だと思います。本当にありがとうございました。終わりに町田地区保護司会の発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げ、退任の挨拶といたします。



南分区
廣瀬 順一

顧みますと昭和59年2月1日に委嘱を受け、保護観察所の諸先生のご指導を頂き、微力でしたが対象者の処遇等の諸活動に携わりました。当初より対象者が抱える問題の複雑、多様化のため処遇

の困難さがありました。

地区保護司会の皆様の温かいご支援のお陰で大過なくこの日を迎えることができ、心より感謝申し上げます。町田地区保護司会の皆様のご健勝をお祈り申し上げ退任の挨拶とします。

●編集後記●

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言いますが、年の始まりの3ヶ月は年度末の3ヶ月でもあり、時が音を立てて流れていくように思える日々をお過ごしのことでしょう。

身近な課題といえば、対象者が来訪しない事です。「次は必ず行きます」と言いつつ来ない時はまだしも、電話もメールも応答無しで連絡も取れないと本当に悩んでしまいます。これは永遠の課題かもしれません。

今年度の締め括り99号をお届けします。今回は様々な「地域と関わりのある活動」を取り上げました。ご感想やご意見などお寄せいただけると幸いです。また、お忙しい中ご寄稿くださいました皆様ありがとうございました。

(市川 恵子)